

I 今年度の研究について

1 研究テーマ

自立活動・時間における指導の授業づくり

～知的障害における自立活動の指導内容項目（H21年度総合教育センター資料より）より学ぶ～

2 テーマ設定の理由

平成23年度より特別支援学校小学部は新学習指導要領全面実施、中学部は今年度より全面実施、高等部は平成25年度から学年進行により段階的に実施することとされた。この改訂の背景には近年、時代の発展とともに特別支援学校を取り巻く状況も変化してきていることがあり、より障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育や支援が求められるようになったことがある。それによって、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための、特別支援学校独自の指導領域である「自立活動」の充実が重視されていることは間違いない。

そこから今後の本校の自立活動の充実を考え、小学部・中学部・高等部にわたり発達段階に合わせ、より一層の一貫性、系統性を備えた自立活動の実践を目指す必要があると考える。

そこで、「自立活動・時間における指導」に着目し、どのような所にポイントを絞って授業を作り、児童生徒に関わっていくのかを学校全体で研究し、教員間での共通理解を図ることを目的としこのようなテーマを掲げることにした。

また、この研究を3年計画とし、本校にとって自立活動の時間をどのように展開していくのかを考え、本校として特色ある自立活動の時間を作り上げることを目標に全教職員で学びあっていきたいと考える。

3 今年度の研究計画

	研修日	研究方法	内容
1	6/19（火）	講義 県立総合教育センターより 高橋先生	自立活動のアセスメントの仕方や 具体的な例
2	9/26（水）	第1回授業発表会 (指導者：松原 豊 氏)	高等部の実践
3	10/24（水）	第2回授業発表会 (指導者：小池 八重子 氏)	中学部の実践
4	11/13（火）	第3回授業研究会 (指導者：霜田 浩信 氏)	小学部の実践
5	2/27（水）	学校研究報告会	全校

研究部としての成果と課題

この一年間、「自立活動・時間における指導」に着目し、全校統一のテーマに沿って研究を進めてきた。テーマには、『県立総合教育センターの「知的障害における自立活動の指導内容項目(試案)」という資料を参考に学ぶ』という副題を入れた。その事により、全学部が共通の資料(センターの資料)を活用して研究を進めることができた。

各学部の授業実践会では、スーパーバイザーや講師を招いて研修を行った。自立活動の時間における指導を行う際の課題設定の方法やポイント、授業シートの書き方等の指導を受けた。

今年度「自立活動の時間における指導について」の研究で、2点の成果があったと考える。

1つは、**教員間の自立活動の時間における指導の大切さ、重要性を共通理解できたことだ。**

小学部では、児童の課題を明確に捉えるためのシート作りに取り組んだ。児童に対しての課題設定や指導内容について深めることができた。**中学部**では、一般学級の教育課程に「自立活動」を新たに設け、「時間における指導」を教科領域とは別として指導していくべきだ、という話し合いを持つことができた。**高等部**では、全教員が一人1ケースの発表を行った。そのことで、「時間における指導」に対しての意識が高まり、今後は教育課程検討委員会と連携しながら、高等部の「自立活動、時間における指導」について見直していくことになった。

各学部が研究を進めていく中で、自立活動の①教育活動全体を通して行う指導②教科領域を合わせた指導の中で行うものと並行して③**時間における指導においても児童生徒一人ひとりに合わせた指導を重ねて行うことが重要であることの共通理解を困ることができたと考えられる。**来年度、各学部がどのように取り組むべきか今後の課題にもなるだろう。

2つに、**教員側が指導を行う際のポイントを学びあうことができたことだ。**授業実践報告会での講師による指導講評では、活動や指導内容のことはもちろん、自立活動の指導を行う時に「**何が重要なポイントになるのか**」という講義があった。どの講師からも共通していた話題は、「**指導方針の設定とその大切さ**」ということであったように考える。教員が児童生徒の実態を的確に捉え、子どもの「**困難さ**」を把握した後、**その困難さの背景を考えることが大切**であることを学んだ。また、同時に「**どうしてその困難さが生じるのか**」ということ**を仮説立て**して指導支援内容を計画しなくてはならないことも重要な話であった。今回学んだことをそのままにせず、活かしていくことを考えなくてはならない。

今回の取り組みの中で、指導方針の大切さを学んだ。その事を活かすためには、我々教員が子どもをアセスメントする力が重要な鍵であると考え、「**指導方針の中に仮説を入れると良い**」ということを学んだが、その仮説を考える時に参考になる物の一つとして、子どもの発達の指標を知ることが必要ではないかと研究部で話し合いを行った。今年度、自立活動の「時間における指導」の大切さを理解した上で、今後どのように指導を行っていくかは、教員の力量にかかってくる。その力量、つまり特別支援学校での専門性を高めるには、障害のある児童生徒の発達を知ることは極めて重要なことであり、今後の課題である。